

JAITI 10

Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundation

JAITIとは、「財団法人日本農業研修協会の英文、Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundationの頭文字の略で「ジャイチ」と呼びます。1989年、農業を生活基盤とする、アジア・アフリカ諸国の農村地域社会の人々が、「生きる糧」の食料を安定確保することで、生活の中に基礎的な教育と公衆衛生に目を向けるゆとりを持ち、健康で、自立心豊かな地球上の「友」になることを願って、活動が展開されています。

発行 (財)日本農業研修協会の
住所 徳島386-06 長野県小県郡武石村19436
TEL.0268-85-3465 FAX.0268-85-3583

今日のジャイチ

半年ごとのこの広報誌も、皆様の暖かいご支援に支えられて十号を迎えることができました。特に、日頃接する機会の少ない皆様とのかけはしの役目を果たすべく、毎号心を込めて発行してまいりました。

一人の力は小さくとも、三千名を超える多くの方々の熱い思いが「ジャイチの活動」として年ごとに大きくなり、ネパールで、日本で、着実に実を結んでいます。辛抱よく見守り、ここまですべて下さった皆様に心からお礼申し上げます。

今年度も、郵政省国際ポ
ランティア貯金・社団法人
国際農林業協力協会(AI
C A F)・環境事業団地球
環境基金のご協力により事
業費の助成を得て、ジャイチ
の順調な活動展開のため、
有効に役立てています。

一年前に起きた阪神淡路
大震災という不幸な出来事
を一つの契機として、NG
Oということばやその実態
が少しずつ認知されるよう
になりましたが、同じ地球
上の「友」として行動を開
始している人はまだまだ少
ない状況です。

「継続」することを最大の
使命としているジャイチ
に、これからの暖かいご支
援をお願いしますようお願い
いたします。

以下お知らせです。

◆国際ポランティア貯金視 察団、ジャイチを訪問

国際ポランティア貯金か
ら寄附金配分を受けている
NGOに対する現地視察が、
郵政省により毎年行われて

います。

ジャイチはネパールで活
動するNGOとして、平成
五年度に続いて二度目の視
察対象に選ばれました。

十一月中旬、同行金推進
協議会メンバー、専門調査
員など十名がシンパンジャ
ンの学校、カカニ農場を視
察し、施設見学、現地の人
々との交流などを行いました。

貯金者の皆様からの寄附
金が有効に活用されている
様子を口頭報告とともに、
ジャイチの活動に対する理
解を深めて頂くことができました。

来年度も引き続き続いて寄附
金配分を申請し、多くの方
々からの善意を有意義に活
用させて頂く予定です。

◆カトマンズ連絡事務所開
設しました
官庁等との折衝の円滑化
などのため、カカニ事務所
の出入としてカトマンズに
連絡事務所を開設しました。

当事務所への郵便物の宛先
は、広報八号・九号に記載
したカトマンズ郵便局内の
私書箱宛となります。

◆バザール支援をありがとう
・国際協力フェスティバル
九月三十日、十月一日
・海野宿一坪市。
(東京)

室賀弥三郎理事長の
顕彰碑建立
室賀理事長の農業振興活動に対する永年の貢献に
応え、このたび長野県上田市室賀家ゆかりの地、塩田平
を見下ろす場所に顕彰碑(顕彰碑)が建立されました。
(十一月十九日)

なお、訪問
通信の現地意
口はこれまで
どおりカカニ
です。

◆ジャイチ・
ネパール支
配人着任
八号でお知
らせました、
新支配人、マ
ン・バハド
ル・シユレス
タ氏、遅れましたが、九月
に着任しております。

シユレス氏は日系企業
で働いていたこともあり、
日本語の会話はもちろん、
ひらがなの読み書きも堪能
です。新しい有力なスタッ
フとしての活躍に期待しま
しょう。

十月八日(長野・東部町)
・上智大学ソフィア祭
十一月一日(東京)
・全国ポランティアフェス
ティバル長野
十一月三日 (長野)
・屋久島植物園即売会
十一月十五日 (東京)
(大高木)

田山豊實さん、植林生曹
状況の調査応援
カカニでの植林の生育状
況を調査するため、田山豊
實さんが長期休暇を利用して、ポランティアで活動さ
れました。(八月及び十一
月・一九九六年一月)

ジャイチでこれまで植林
した落葉松・ナラ・カシ
・クスギなどについて、樹種
別に本数、生育状態などに
ついて調べて頂きました。

詳細は次号にてお伝えし
ます。
(大高木)



▲大盛況の国際協力フェスティバル

ネパール情報

昨年十一月、ネパールで
雪崩により、日本人を含む
大勢の外国人旅行者が遭難
した。丁度ジャイチの二農
場と学校訪問の旅に、日程
が重なったこともあり、大
丈夫でしたかとの問い合わせ
や、お見舞いを頂きました。

それこそその筈、日本人の
ネパール観を、長く聞いて
みると、寒く、険しく、雪
で真白な山国の印象です。

当然、私達の故郷も、この範
疇と想像されてのご心配。
冬の長野県山間部を訪れ
た外国人が、この情景を日
本として、自国民に伝えた
と同じ状態。

そこで、私なりのネパー
ル紹介をお届けします。
この国は、北緯二七・八
度、(日本では東北諸島当
り)東西八〇〇km、南北二
〇〇kmの、四国のような形。
北半球の人が一般的に持つ
ている地図上で、下・右・
左、つまり南・東・西がイ
ンドと国境を接し、海抜八
十mから百五十m、四、五
十kmの中、東より西方向
へゆるやかな平原が続き、
虎やワニなどが生息する明
るいジャングル。上、つま
り北緯が中国との国境線で、
世最高峰(八八四八m)の
エベレスト(ネパールはサ
ガルマータ、中国はチョモ
ランマと呼ばれます)を含む
ヒマラヤ山脈となり、この
情報が圧倒的に日本に入っ
て来てます。
(菊池)

室賀弥三郎理事長の
顕彰碑建立
室賀理事長の農業振興活動に対する永年の貢献に
応え、このたび長野県上田市室賀家ゆかりの地、塩田平
を見下ろす場所に顕彰碑(顕彰碑)が建立されました。
(十一月十九日)

4学年在校の学校に育ちました



▲シンパンジャン学校風景

この二月、四月入学、三月卒業に慣れた日本人にとっては、説明を受けて一応理解しても、実際に程遠いのが本音です。併し、この四月一三月の学校制度は、世界から見れば、逆に日本が主流です。

参考までに、ネパールの国家予算制度は、四月一三月、勿論ネパール暦です。年度の感覚からすると、中途半端な新学期と思われませんが、ネパール固有の暦で、実生活を営むネパールでは当たり前です。

本誌を発送する一九九六年一月二十日は、ネパール暦では二〇五二年十月六日、学校制度は欧米方式を取られてますから、新学期は十月、しかも始業は大体二十日頃なので、日本の暦から勘定すると、二月早々が、新学期になる訳です。

四月入学、三月卒業に慣れた日本人にとっては、説明を受けて一応理解しても、実際に程遠いのが本音です。併し、この四月一三月の学校制度は、世界から見れば、逆に日本が主流です。

参考までに、ネパールの国家予算制度は、四月一三月、勿論ネパール暦です。年度の感覚からすると、中途半端な新学期と思われませんが、ネパール固有の暦で、実生活を営むネパールでは当たり前です。

「里親だより」の話しがはさんでいきました。先きに乘ったのは田村さんで、彼女

里親だより

坂口 益子



坂口 益子

はすっかりその気になっていました。私は、息子を一人育てあげましたが、オーストラリアの青年を含めて、六人の男の子をホームステイしていますので、今回は余り乗気にもならずにはいりませんが、日本の事務局長、長野県の武石村と云うではありませんか。私の生まれ育ったのは、お隣の東部町です。町で用事をすませて、その足で、武石村の事務所

を訪ねました。そのあたりから、私のやる気が起きて、女の子を希望していたつもりが、なんと運命の糸に手繰られ、マルコス君がやってきたのです。

写真や文通は始まりましたが、出来ればなるべく遠ざかって育ててみたい、空気がように、何気なく存在したいものです。

希望としては、マルコス

君には政治家になって、国を考えるような人物になってほしいですね。これから発展していく国ですもの、夢は単になく広がることでしょうか。お互いに、異国の文化に接したことは、貴重な体験であり、国を越えて対話し地球人間として生きていることを大切に考える人になつてほしいものです。

と申します娘の息子は、漫画家という特殊な仕事をしているの、男らしさという願望でしょうか、でも願望を持続させることが現実になる可能性は高いことが、この年令になって知りました。私の現実も然り。

友人の田村恵子さんとは二十年以上のお付き合いで、よきライバルでもあり、私たちグループの仲間です。(田村恵子さんも、里親になられました。事務局)

合説明に理解が得られず、苦慮すること度々です。生徒達は、学校が楽しくて仕方無いとばかりに、全体に喜びを現わして通学しています。それ文に、出席率、極めて良好です。

シンパンジャンに学校が出来て、安定、継続して、

調査団より、海外支援事業の成功例でしようと、講評を受けた通り、学校の運営、本年度に向けた施設造りも、全て順調です。(勇徳)

広報紙の発送の作業も手伝いますが、なにげなく届く金銀類でもいろんな手を経て届けられることもわかりました。シンパンジャンの学校の子供達の通学用手



▲このシリーズスタイルで寄付した。左はネパール人のボランティア、右は日本人のボランティア

ジャイチが運営してくれるとの、信頼が住民に広まり、子弟を学校に出せないとの理由で、郡市へ流出していた農民が、教育の心配が解消したと云って、村へ戻り始めました。支援者の皆様と共に、素直に喜び度いと存じます。これに関し、こんな余談があります。

昨年十一月、郵政省国際ボランティア貯金の寄附金配分事業の、現地調査団が、学校を訪問調査しました。団員に、全国各地の六名の市・町・村長各位が参加されており、転出者が戻る活動なら、ジャイチはネパールで無く、我が街で活動して欲しいと、本音とも、冗談とも取れる話しでした。

ジャイチと私

田村 由紀子

私がジャイチに関わりを持ったのは、地元ミニニコミ誌でパソコン入力ボランティア募集に応募したのが始まりです。こうした活動に今まで接し

た事がなく、住所録のデータ入力をしていても、ここに協賛しての方が全国各地海外までおよんでいるのに驚きました。この農村地域で暮らしていても、国際協力が出来ると思つたと参加してよかったです。

広報紙の発送の作業も手伝いますが、なにげなく届く金銀類でもいろんな手を経て届けられることもわかりました。シンパンジャンの学校の子供達の通学用手

私は事務所の近くに住んでいるので、時々何つては事務局の人や、訪問者の方々と話をして、活力を少し吸収させてもらって、ちょっと夢をみます。

長野のボランティア全国大会の時は娘も連れて行き、活動に触れさせました。参加前はのり気じゃなかったのですが、時間が経つにつれ好きになった様です。

ネパール行つてみたいね、が娘と私の合言葉となりました。今、私は友達の家へ行くような気楽さで出来る範囲で参加しています。

今、

カカニ農場では

初めて農場を訪れたのが一九九一年の六月で、本誌二号に「カカニ農場」の感想を書きました。特に気温や試作物のなかで良いと云われた物が良くなかったりと、やはり自分で見て確認する事と、自分で栽培して見なければと反省しております。

その後、九二年の八月より一年間の長期ビザが取得できましたので、気候や試作物を自分の目で見て、生育の様子もつぶさに観察することができました。しかし、一年一回の栽培、毎年異なる気象条件、特に雨季の開始、終了時の見定めが難しいなかでしたが、ほぼ当地に適すると思われる種類、品種の確定も終了しました。けれども、まだ試作していない作物もあり、栽培方法を改良すれば良い作物、また新品種の出現等によって

カカニ農場の旬別降雨量の比較 (単位mm)

月別	1993	1994	1995
5 上	79.6	52.0	0.3
5 中	86.0	201.9	206.2
5 下	157.3	223.3	6.3
6 上	109.3	66.3	330.0
6 中	90.9	268.8	413.6
6 下	134.7	329.9	194.5
7 上	36.8	146.8	214.2
7 中	325.9	188.1	270.4
7 下	225.0	246.8	278.9
8 上	342.7	292.3	88.1
8 中	186.4	180.3	261.9
8 下	215.5	274.4	315.3
9 上	58.6	241.3	53.6
9 中	58.1	183.5	134.4
9 下	126.0	48.8	134.1
10 上	26.0	-	11.2
10 中	-	-	16.0
10 下	-	-	-
11 上	2.9	11.9	37.2
11 中	-	-	30.6
11 下	-	26.3	-

は変わってきますが、これらは今後の課題になろうかと思えます。

番号に続いて、現在までの経過を報告いたします。一番試作物や農作業に影響を及ぼす降雨量は、別表のとおりでした。番号にも書きましたが、五月下旬以降雨がなく、他の作物栽培との関係で水稲栽培は中止としてしまいました。六月上旬～中旬には降雨も多く、収穫期を迎えたレタス、カリフラワー、ブロッコリー等に腐敗が多く、良い成績とは云えません。以降雨季が続き、十月に入っても降雨があり乾季入りの遅い年となりました。また、十一月九～十日にかけては季節はずれの降雨があり、高地では雪となり、農圃で被害者も出ております。

次に農作物ですが、春は五月中旬の降雨を待って、子苗のポット受けを始めましたところ下旬には再度の灌水に追われてしまいました。八月下旬から降雨の合間に定植しましたが、九月上旬までかかってしまいました。九月下旬に追肥と中耕を行ない、十月十六日より出荷を始めました。今後は収量の減少する二月に入り、一部の畑は整備のため取り除く予定で、昨年より広い面積に植えましたので、ポリエチレンフィルムでの被覆は行わず、露地植のまま栽培を続けるつもりであります。

今年も研修生五人の他に、面積の大小はありますが育苗からスタートして栽培しており、農場の出荷に伴って少量づつではありますが出荷をしております。研修生の一部は面積も広く、灌水のためパイプ購入資金も貸して、春の売上金で清算することになっております。また、栽培面積との関係もありませんが、出荷時期も九三年の十二月二十日、九四年の十月三十一日からみて前進しております。しかし、開花時の天候や味の面から見て、今年ぐらいいが親戚という感じもします。今年も9月中旬から収穫はできましたが、泥の付着も多く味の面でも糖度が低く酸っぱい感じでした。十月中旬以降収穫するためには、定

4月9日の農場風景



植時に花や蕾を取り除くことなのですが、もったいなさいのと植えた後の降雨量が少なければなどと考えてしまい、仲々実行できないのが現状です。現在女子二名を主に、午前中はランナーを取り古葉や古い果梗の整理と除草、午後は一日おきに灌水と収穫のくり返しの毎日です。

今年も栽培してみたいと考えています。ゴボウは、早生種を中心に栽培しましたが、畑により発芽率も異なり悪い所には、サツマイモを植えてしまいました。来年は、播種時期の試験を行なう予定ですが、土づくりと土中の石を取り除くことが先決のようです。

サツマイモは五月中旬と六月中旬下旬に植えました。畑を空けておくのはもったいないので、できるだけ早く一部野蔵しておいて、のんびり販売する予定でおります。また、カトマンズの店で購入したサツマイモを種手として使い、出荷を始めた人も居るといふ事です。研修生も自分で苗作りから栽培も始めています。大豆は、種子の要望が多く、一人五百グラムに制限して販売しましたが、それ



▲造成を終えた研究員宿泊棟建設地

でも足りませんでした。播種期も降雨の関係で五月下旬には行えず、六月に入ってしまったのですが、収穫は終りました。インゲン、キュウリ等支柱を要するものは、資材の入手が難しいので、自家用程度の小面積で良いと考えています。その他、採種用大根、スナップエンドウ、タカナ等も生育しております。春から着手しました宿泊施設建設用地の整備に追われてしまい、農作業が手薄となってしまうましたが、現在では完了し建設を待つのみとなっております。水牛にも仔牛が生まれ、現在搾乳を続けております。畑の耕耘に使っていた黒牛のうち一頭が相から転落し、骨折のため動けず死んでしまいましたので、新しく購入しなければならなくなりました。

また、仔豚も二匹もらい受けしたので、今後はネズミ退治に活躍することと思えます。圃場や圃内道の整備も一段落しましたので、今後は土壌の肥沃化を図るため、土中の腐植含有量を多くすることが必要ですので、現在以上の堆肥が必要となります。また、播種床やポットに使用する良質の堆肥や育苗土も多量に要しますので堆肥舎の増設を検討しています。併せて、単なる自然農法と云いますが無農薬、無化学肥料栽培ではなく、作物の栄養・生理に基づいた微生物利用の農法も試みたいと考えております。発酵資材の面や当地に多い土壌害虫にどう対処するか等の問題もありますので、今後いろいろ試してみたいと考えております。

最後に、社団法人国際農林業協力協会(AICAD)の援助を受け、この農場に滞在できますことを感謝申し上げますとともに、環境事業団の助成金を始め、ジャイチの活動をご支援いただいております皆様方にお礼申し上げます。

また、残念ながらビザの関係で長期滞在できなかつた牧野さん、白井さんには、滞在期間中農作業にご協力いただき感謝申し上げます。(農業指導員 松浦 浩)

ネパールの旅に参加して

大津 靖子

十一月十一日(土)から十九日(日)迄のジャイチ「ネパールの農場と学校訪問の旅」に、この度参加させて頂きました。結果的には、大変乗りあがり楽しい旅でしたが、十一日成田からの出発の日、前日に集合場所と時間の変更がありましたので、当日新に指定された、JALのGカウンター前に、八時には着いていたのですが、約束の印刷のネパール国旗も、それらしい団体写真も当らず随分心配してしまいました。全く持参手帳が無いので、あちこち聞いて廻りました。やっと八時半近くになって、歩き廻っていたら、ナラリと赤い旗を背物の上に巻せようとしてた方を見付け、もしかしてと伺ったら、そうだとの事、やっとホッと

した次第です。早目に目印をハッキリ示していただき度いと思いましたが、しかしその後は、目を重ねるに従って、皆機と親しくさせていただき、飛行機の発着が遅れたり、車が遅れたりする事も気にならなくなつて参りました。目に触れるもの、聞く物すべて目新しく、未経験の事ばかりで、興味しんしんの毎日でした。現在日が経るにしたがってますます楽しくなつて参ります。

チトワンでの象に乗って野性動物を見に行ったこと、早朝の河をカヌーで下ったこと、美しかった降る程の星空、星雲、最後の日のマウンテンフライトもよい思い出です。旅行中ずっと素晴らしいお天気に恵まれ、晴らしいお天気に恵まれ、存分にヒマラヤ連峰を見る事が出来、春せでした。ヒマラヤを見渡いたがというのが子供の頃からの私の夢でしたから。

又ジャイチのやっているシンパンジャン学校を見学、皆偉方のご努力と熱意がひしひしと伝わって参りました。又翌日のカカニ農場の訪問、野菜や果物等色々その土地に何が合うのかと工夫しては、作っていらつしやるお姿に感動してしまいました。そこでとれた美味しい野菜もご馳走になりました。ジャイチの主旨も説々

判つて参りましたが、これからは私も微力ながら、細く長く支援させて頂いた度いと思ひます。

昔帰国してから委しく知つたのですが、丁度私共がネパールの着く直前に降つた雨が、山では二メートルの積雪となり、それが雪崩となり多くのシェルパの人々、トレッキングの人々の命を奪ってしまったニュースに胸が痛みます。深くご冥福をお祈り申し上げます。

最後に案内引率責任者の玉木先生はじめ、ジャイチのスタッフの皆様、それに旅行でご一緒させて頂いたいた皆様、本当にお世話になりました。厚く御礼申し上げます。

第七回JAITI・ネパールの農場と学校訪問の旅参加者募集予告

今年も実施します。

ご希望の方は、今から日程を組んでおいで下さい。

日程 十一月九日(日)～十一月十七日(日)

費用 二十八万を予定。

これで、出国から入国まで、財布は不用です。

※ジャイチの企画で、案内しますが、旅行業者のパックツアーではありません。

開発途上の実情を鑑みていただき、その上で人とのふれあいを皆機と共にいたしたいと考えています。

(豊田)



▲シンパンジャン学校での食事風景

NGO (Non-governmental Organization) とは、元々、国連が政府以外の民間団体との協力関係を定めた国連憲章の中で使われた用語で、非政府組織、民間非営利団体などと訳されています。

そして「一般に、「開発問題、人権問題、環境問題、平和問題など、地球規模の

NGO-ロメ

NGOってなに?

諸問題の解決に取り組む、市民主導による国際組織ならびに国内組織」の総称として使われています。

日本のNGOは、数十万人の会員を擁する団体から数人で活動しているものまで、活動内容、規模ともに多種多様です。

委発までに、NGO活動推進センターが作成の「NGOダイレクトリ94」では、国際協力に携わる一八六団体が、また、環境事業団の「平成7年環境NGO総覧」では、海外・国内で活動している四五〇六団体が収録されています。「ジャイチは両方に収録」(大高木)

毎日、眺めている山々がある朝突然、白い雪山になる。春の芽吹きの際期の山色の機微、初夏の脚動感、秋の紅葉というサイクルは山村に育った私にとって、楽しみのひとつである。それは、観光などで味わう驚きや体験とは、全くちがう種類の感覚である。海辺には海の、山国には山の楽しみ方を与えてくれるように思う。都会には都会の楽しみ方があるでしょうが、本号の寄送料は常態道「上倉徹夫氏」が負担してくださいました。(尾)

編集後記

ご寄附のお願い

ジャイチの活動を何れも心に留めて下さり、感謝申し上げます。運営されている財源その他について説明とお断りを致します。ご協力をお願い申し上げます。

1. ジャイチ基金……財団法人ジャイチの基本財源の確保。基金を信託銀行で運用し、その果実(運用費)でジャイチ活動の基本部分を確保することを目的としています。毎年度、多年度、果樹のようになります。基金が大きくなればなるほどジャイチの財源が豊かになります。基金へ寄付して頂いたお金は何十年何百年あまでジャイチと共に果樹の魂が残りです。
2. ジャイチ維持費……ジャイチの運営維持費。基金から生み出される財源では只今のところ活動に不足を来します。そこで必要な活動に使わせて頂く目的のものです。一年単のような着積りて取替わります。・当分の間、この維持費はジャイチの活動に欠かせない費用です。
3. ジャイチ事業費。新たに大きい費用のかかる事業を計画した時にその必要費用として確保することを目的としています。通常の予算(ジャイチ基金の果実、ジャイチ維持費で組まれる)では無い時に臨時に集める目的の寄附金です。・必要な時に皆様にお断りのお知らせをさせていただきます。

ジャイチでは上の3つのような形でご寄附をお願いしております。何にご寄附下さったのか、お断り頂きますと幸いです。もしも特に断りのない場合は基金と維持費に半分ずつ使わせて頂きますのでご了承下さい。

郵便振替 00510-4-65434
振込先 番号 銀行振込 八十二銀行丸子支店(普)420577
口座名 財団法人日本農業研修協力団
住所 〒388-05 長野県小県郡石村458
電話 0268-85-3485 FAX 0268-85-3583

尚、金額に関しては規定がございませんので、お断りお断りご自分でお断り下さいますようお願い申し上げます。(例えば、収入の1%を、小遣の1%を、約的な考えは如何がでしょうか。)